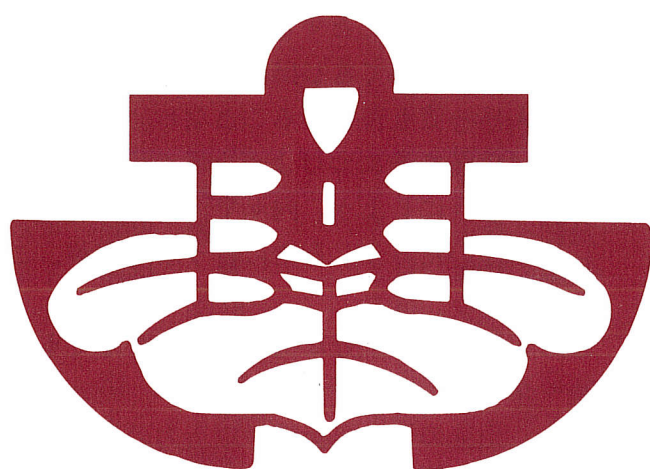


第 35 回

平成29年度 桐 蔭 展



●会期／(美術・書道・家庭・華道・写真)

平成29年12月13日(水)～12月18日(月)

(9 : 00～17 : 00 12月18日(月)は 12 : 00 まで)

●会場／県民文化会館 1階「展示室」

〒640-8269 和歌山市小松原通1-1

年の瀬恒例の桐蔭展を、皆様方のご理解・ご支援により、今年も開催することが出来ました。本展は昭和 58 年度の第 1 回開催から数えて 35 回目となります。

生きていく中で、感動したことや感激したことを自分の中だけに留めず、様々な手段で表現し、周りの人達と共感していく。このことは、人が心豊かに生きていく上で、とても大切なことだと思います。文化の創造は、常により意義あるものを自分ないし自分たちの手でつくってみたいと拘ることであり、欲しいものは何でもお金と交換できると考えてきた文明社会の行き詰まりに一筋の光明となるとも言われます。

桐蔭展には、生徒が美術・書道・家庭等の授業で制作したものと、美術部・書道部・華道部・写真部等の部活動での創作品を中心に、全スペース余すところなく展示しております。その展示作品の多くは未熟なものではありましようが、限られた時間内で若い感性とエネルギーが注ぎ込まれたものであります。

吉田兼好（兼好法師）の随筆『徒然草』の第百五十段「能をつかんとする人」の冒頭に、次のようにあります。

能をつかんとする人、「よくせざらんほどは、なまじひに人に知られじ。うちうちよく習ひ得てさし出でたらんこそ、いと心にくからめ」と常に言ふめれど、かく言ふ人、一芸も習ひ得ることなし。

（芸能を身につけようとする人は、「うまく出来ないうちは、うかつに人に知られないようにしよう。内々でよく練習して上手くなってから人前に出たら、たいそう奥ゆかしいだろう」と常に言うようだが、このように言う人は、一芸も身につくことは無い。）

だから、十分な出来映えでなくても、積極的に発表の機会を得ることは意義があります。

生徒のもつ可能性や創造力の豊かさを感じ取っていただき、彼らが更なる高みを目指して精進するよう、ご声援いただきたく存じます。

また本展は、卒業生や保護者の方々、教職員にもご参加いただき、文化的交流の場となっていることを申し添えます。

結びに、桐蔭展の開催に際し、多大なご支援・ご協力を賜った保護者、卒業生等関係の皆様方、ならびに、師走の忙しい時期にご来場の上、ご鑑賞いただきました皆様方に感謝申し上げ挨拶といたします。

平成 29 年 12 月 13 日

和歌山県立桐蔭中学校・桐蔭高等学校

校 長 清 水 博 行

和歌山県立桐蔭中学校・高等学校 P T A

会 長 丸 宮 智 幸